

NSG

GROUP



NSG グループ

2017年3月期第1四半期決算報告

(2016年4月1日～2016年6月30日)

日本板硝子株式会社
2016年7月29日

諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

イアン・スミス

経理部 グループファイナンス担当ディレクター

NSGグループ 2017年3月期第1四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

CFOの諸岡です。

本日の説明会には、私とCOOのクレメンス・ミラー、そして経理部グループファイナンス担当ディレクターのイアン・スミスが同席しております。

2017年3月期第1四半期決算報告

(2016年4月1日～2016年6月30日)



目次

要点
決算概要
事業状況
まとめ

4ページは、本日の内容となります。

本日は、私の方から、この目次に沿って説明を行います。

要点：2016年4月－2016年6月



- 2017年3月期第1四半期の営業利益は、前年同期を大きく上回る
- キャッシュ・フローは、利益の増加により改善
- 事業改善・財務改善のための施策は順調に進捗

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

5

5ページをご覧ください。

本日、2017年3月期第1四半期の業績を発表しました。業績の概要ですが、このスライドにまとめた通りでございます。

営業利益は、欧州市場の回復、エネルギーコストの減少、そして生産性の改善などにより、前年から大きく改善しました。

キャッシュ・フローは、利益の増加と有形固定資産の売却により、改善しました。

事業改善・財務改善のための施策は順調に進捗しております。第1四半期では、中国における型板ガラス事業からの撤退やベトナムの薄板ガラス用フロート窯の休止により、さらなる損失計上のリスクを抑えています。財務改善施策の方ですが、社債の償還は完了しており、リファイナンスの協議は順調に進んでいます。

各地域別の状況ですが、欧州では、建築用ガラス・自動車用ガラスのいずれの市場でも改善が見られ、当社グループの業績にもその効果が反映しております。

日本の業績ですが、建築用ガラス・自動車用ガラスのいずれの市場も軟調に推移しており、当社グループの利益は前年同期を下回りました。

南米の自動車用ガラス事業ですが、引き続き厳しい市場環境の影響を受けています。

その一方で、北米・南米・東南アジアの建築用ガラス事業の業績が改善しています。

2017年3月期第1四半期決算報告

(2016年4月1日～2016年6月30日)



目次

要点

決算概要

事業状況

まとめ

連結損益計算書



(億円)	17年3月期 4月-6月期	16年3月期 4月-6月期	前年比
売上高	1,505	1,621	-7% ²
無形資産償却前営業利益	89	52	71% ³
償却費 ¹	(18)	(21)	
営業利益	71	31	
個別開示項目	78	(6)	
金融費用(純額)	(42)	(42)	
持分法による投資損益	0	(1)	
税引前利益/(損失)	107	(18)	
当期利益/(損失)	44	(5)	
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	39	(14)	
EBITDA	162	137	18%

¹ ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

² 為替変動を除くと4.5%増

³ 為替変動を除くと97%の増

円高による影響を受けるも、無形資産償却前営業利益は着実に改善

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

7

7ページは、連結損益計算書になります。

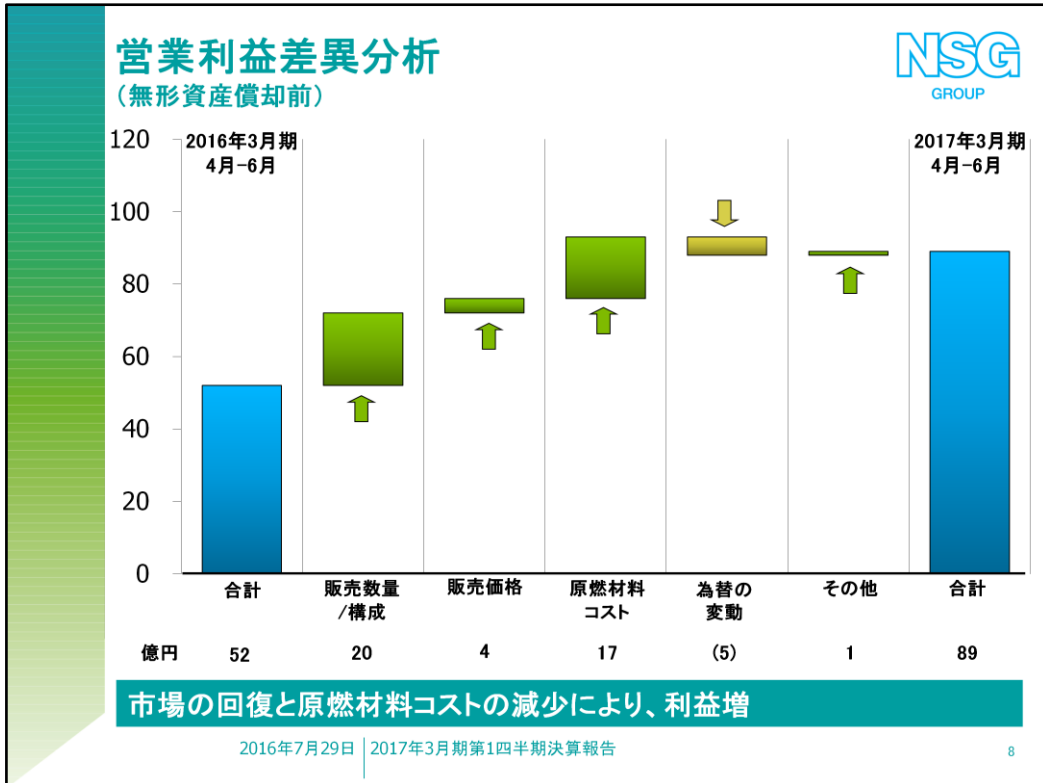
売上高は1,505億円となり、前年比で7%の減少となりました。為替変動の影響を除くと、前年比4.5%の増加となります。

無形資産償却前営業利益は89億円で、前年から37億円の増加となりました。為替変動の影響を除くと、前年の倍になります。

欧州市場の回復、エネルギー・コストの減少、そして生産性の改善が利益の増加に寄与しました。

個別開示項目では、78億円の利益を計上しています。セール・アンド・リースバック取引の実施による利益や関連会社に対する投資の売却益などを計上しています。

金融費用及び持分法による投資損益は、前年と同様の水準となりました。



8ページへ移ります。ここでは、無形資産償却前営業利益について、前年との差異について説明しています。

「販売数量/構成」は、主に欧州と北米の自動車ガラス事業における数量増加の影響を反映しています。

「販売価格」ですが、欧州と北米の建築用ガラス事業で改善しています。

「投入コスト」では、エネルギー・コストが下がりましたが、原材料費の上昇がその効果の一部を相殺しています。

「為替の変動」ですが、ここでは為替の変動が当社の利益に及ぼした影響を示しています。グラフでは、前年の利益を当期の為替レートで換算しなおした時の影響を示しています。

個別開示項目



(億円)	17年3月期 4月-6月期	16年3月期 4月-6月期
有形固定資産等の売却による利益	77	-
事業撤退による利益	9	-
関連会社に対する投資の売却による利益	7	-
関連会社に対する持分変動益	-	1
リストラクチャリング費用	(7)	(3)
有形固定資産等の減損損失	(7)	-
係争案件の解決に係る費用	(1)	(4)
	78	(6)

有形固定資産の売却益を計上

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

9

それでは9ページへ移ります。ここでは、個別開示項目の内訳をご確認いただけます。

第1四半期では、日本とマレーシアで実施したセールス・アンド・リースバック取引などにより、78億円の利益を計上しました。

連結キャッシュ・フロー



(億円)	17年3月期	16年3月期
	4月-6月期	4月-6月期
当期利益/(損失)	44	(5)
減価償却費	91	106
減損損失	7	-
有形固定資産等売却益・事業撤退による利益	(94)	-
法人所得税支払額	(19)	(12)
その他	62	(55)
営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）	91	34
運転資本の増減	(111)	(149)
営業活動によるキャッシュ・フロー	(20)	(115)
有形固定資産の取得	(78)	(86)
資産売却収入	86	-
その他	(5)	(3)
投資活動によるキャッシュ・フロー	3	(89)
フリー・キャッシュ・フロー	(17)	(204)

利益の増加による営業活動によるキャッシュ・フローの改善

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

10

10ページはキャッシュ・フロー計算書になります。

赤い箱で囲った箇所では、営業利益の改善と沿うかたちで、営業キャッシュ・フローが改善していることをご確認いただけます。

フリー・キャッシュ・フローは、運転資本の季節変動による影響を受けながら、資産売却によるキャッシュ増の効果もあり、前年から大きく改善しています。

主要財務指標 (KPI)



	2016年6月末	2016年3月末
ネット借入(億円)	3,741	3,810
ネット借入/EBITDA	6.0x	6.3x
ネット借入/純資産比率	5.4	3.4
	17年3月期 4月-6月期	16年3月期 4月-6月期
EBITDA/インタレスト・カバレッジ	4.0x	3.7x
営業利益率*	5.9%	3.2%

* 無形資産償却前営業利益

ROSなどのP/L指標は改善、純資産は円高の影響を受ける

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

11

11ページは、主要財務KPIの一覧です。

「ネット借入/EBITDA」は緩やかに改善しています。

また、赤い線で囲まれたP/L指標ですが、これらも利益の増加に沿って改善しています。営業利益率は5.9%になりました。

「ネット借入/純資産比率」は、円高による為替換算の影響を受け、前期末から悪化しています。

2017年3月期第1四半期決算報告

(2016年4月1日～2016年6月30日)



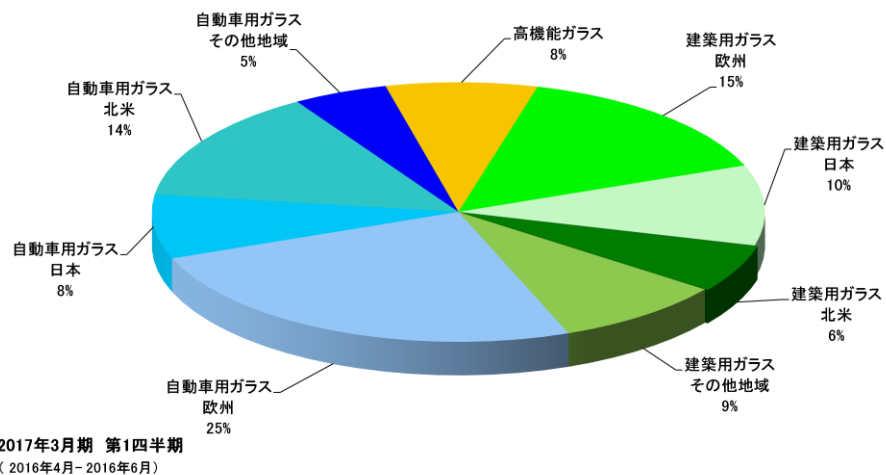
目次

要点
決算概要
事業状況
まとめ

事業別売上高



1,505億円



2017年3月期 第1四半期
(2016年4月 - 2016年6月)

グローバルに事業展開

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

13

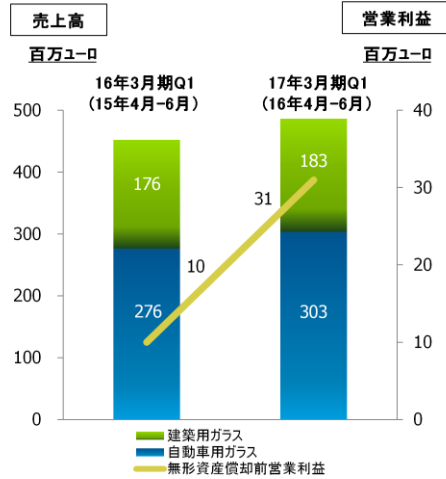
13ページへ移ります。

このスライドは、当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

当社グループの売上高の構成比ですが、欧州が40%、日本が23%、北米が21%、その他が16%となっています。

欧州

2016年3月期第1四半期との比較



建築用ガラス事業

- 需要の増加により、数量と価格が改善
- エネルギーコストの減少が利益に寄与

自動車用ガラス事業

- 新車用ガラス(OE)は、乗用車販売台数増加の影響を享受
- 生産性が改善
- 補修用ガラス(AGR)の数量は堅調

市場の改善による影響を享受

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

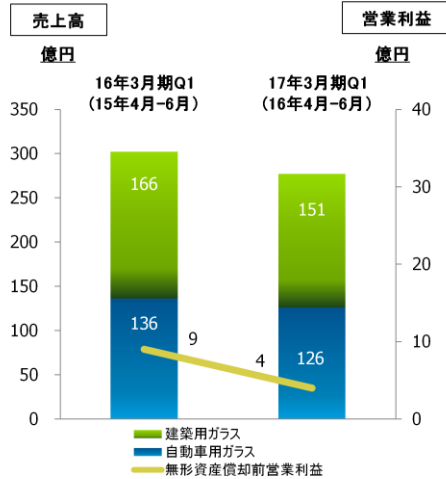
14

14ページへ移ります。ここでは欧州における当社グループの建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業の業績についてご覧いただけます。

建築用ガラス事業では、市場における需要の増加により、数量と価格の改善が見られました。また、エネルギー・コストの減少が利益に寄与しました。

自動車用ガラス事業では、乗用車販売台数の回復に沿うかたちで当社グループの数量が増加しています。また、生産性の改善が利益に寄与しました。

日本 2016年3月期第1四半期との比較



建築用ガラス事業

- 数量は前年より減少

自動車用ガラス事業

- 乗用車販売台数減の影響を受け、減収減益

軟調な市場の影響を受け、減収減益

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

15

15ページは日本です。

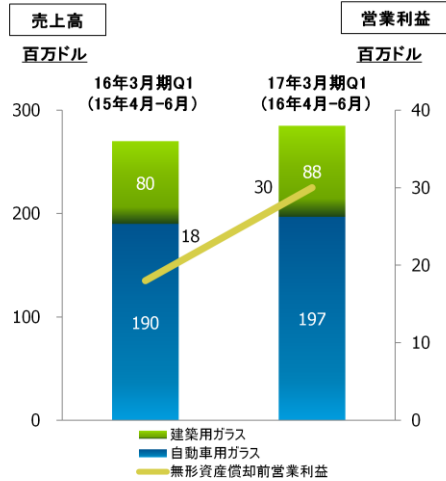
当社の建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業のいずれも、軟化した市場の影響を受けています。

建築用ガラス市場では、商業分野と住宅分野のいずれも低調に推移しています。

当社の自動車用ガラス事業の数量は、乗用車販売台数減少の影響を受けています。

北米

2016年3月期第1四半期との比較



建築用ガラス事業

- 価格が堅調に推移し、増収増益
- 高付加価値品の数量が増加

自動車用ガラス事業

- 新車用ガラス(OE)では、当社の数量が増加しており、増収増益
- 生産性が改善
- 補修用ガラス(AGR)の業績は、前年同期と同様の水準で推移

市場は好調を維持しており、利益増

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

16

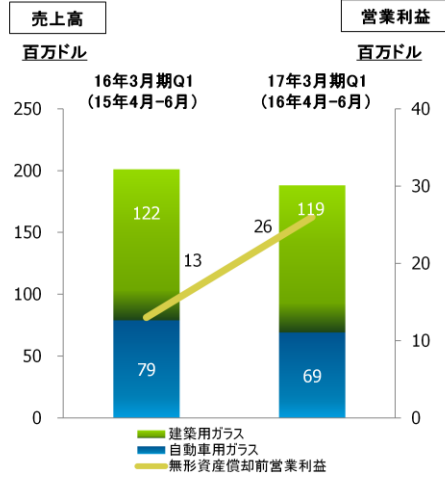
16ページの北米へ移ります。

建築用ガラス事業は、堅調な需要に支えられた価格の上昇やVA製品の数量の増加により、増収増益となりました。

自動車用ガラス事業は、数量の増加により増収増益となりました。生産性の改善も利益に寄与しています。

その他地域

2016年3月期第1四半期との比較



建築用ガラス事業

- 前年は、アルゼンチンのフロート窯定修によるマイナス影響を含む
- 東南アジアの需要は堅調

自動車用ガラス事業

- 南米では低調な市場の状況が継続

好調な地域と低調な地域が混在

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

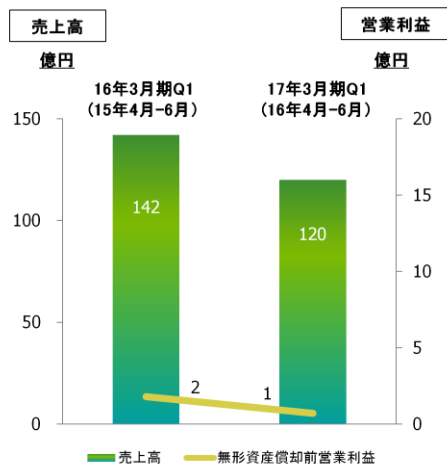
17

17ページは、その他の地域です。

建築用ガラス事業ですが、南米は厳しい経済情勢のなか利益が改善しています。前年は、アルゼンチンのフロート窯の定修によるマイナス影響を含んでいます。東南アジアは、引き続き堅調な需要の影響を享受しています。

南米の自動車用ガラス市場ですが、乗用車販売台数が前年より減少しており、低調に推移しています。当社グループの業績は、その影響を受けています。

高機能ガラス事業 2016年3月期第1四半期との比較



高機能ガラス事業

- ベトナムの薄板ガラス用フロート窯の休止により、ディスプレイの赤字は縮小
- オフィス向けプリンター用レンズの数量は減少
- 堅調な自動車市場を背景に、グラスコードの数量は増加
- バッテリーセパレーターの需要は堅調

厳しい市場環境の影響を受ける

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

18

18ページの高機能ガラス事業へ移ります。

高機能ガラス事業の利益は、前年と同様の水準になりました。ベトナムの薄板ガラス用フロート窯の休止により赤字が縮小したものの、オフィス向けプリンター用レンズの数量が市場の軟化により減少しました。グラスコードとバッテリーセパレーターの需要は、堅調に推移しています。

持分法適用会社 2016年3月期第1四半期との比較



(億円)	17年3月期 4月-6月期	16年3月期 4月-6月期
持分法による投資損益	0	(1)

- セブラセ(ブラジルのジョイント・ベンチャー)の業績は前年同期から悪化
- 2016年3月期において減損損失を計上した結果、中国とロシアのジョイント・ベンチャーが赤字であっても当期損益に影響しない

前期の減損損失計上により、赤字会社の影響を回避

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

19

19ページは持分法適用会社の説明になります。

持分法による投資損失はほぼゼロとなり、前年と同様の水準になりました。

ブラジルのジョイント・ベンチャーであるセブラセの業績は前年を下回っています。その一方で、2016年3月期において減損損失を計上した結果、中国とロシアのジョイント・ベンチャーが赤字であっても、当期損益に影響はありません。

2017年3月期第1四半期決算報告

(2016年4月1日～2016年6月30日)



目次

要点
決算概要
事業状況
まとめ

まとめ

- 2017年3月期第1四半期の営業利益は、前年同期を大きく上回る
- キャッシュ・フローは、利益の増加により改善
- 事業改善・財務改善のための施策は順調に進捗
- 2017年3月期の通期業績見通しは変更なし

21ページは、本日のまとめになります。

2017年3月期第1四半期の営業利益は、欧州市場の回復、エネルギーコストの減少、そして生産性の改善などにより、前年から大きく改善しました。

キャッシュ・フローは、利益の増加により改善しています。

事業改善・財務改善のための施策は順調に進捗しております。

2017年3月期の通期業績見通しですが、業績の改善が円高による業績へのマイナス影響を相殺すると見込んでおり、変更しておりません。

また、当社グループの中期経営計画(MTP)につきましては、その進捗に関する評価と目標達成に向けての方策の検討を行ったうえで、2017年3月期第2半期決算発表の時に、検討の結果をご報告させていただく予定にしております。

これにて、本日の説明は終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社

補足資料

事業部門別・地域別売上高

2016年3月期第1四半期との比較

(億円)	17年3月期 4月-6月期	16年3月期 4月-6月期	増減
建築用ガラス	599	647	(48)
欧州	223	235	(12)
日本	151	166	(15)
北米	96	97	(1)
その他の地域	129	149	(20)
自動車用ガラス	785	831	(46)
欧州	370	369	1
日本	126	136	(10)
北米	214	231	(17)
その他の地域	75	95	(20)
高機能ガラス	120	142	(22)
欧州	18	21	(3)
日本	62	70	(8)
北米	3	3	0
その他の地域	37	48	(11)
その他	1	1	0
欧州	0	0	0
日本	1	1	0
北米	0	0	0
その他の地域	0	0	0
合計	1,505	1,621	(116)

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

償却前営業利益*

2016年3月期第1四半期との比較

(億円)	17年3月期 4月-6月期	16年3月期 4月-6月期	増減
事業別			
建築用ガラス	65	33	32
自動車用ガラス	37	26	11
高機能ガラス	1	2	(1)
その他	(14)	(9)	(5)
合計	89	52	37
地域別			
欧州	35	14	21
日本	(6)	7	(13)
北米	31	21	10
その他の地域	29	10	19
合計	89	52	37

*: 無形資産償却前営業利益

連結貸借対照表



	2016年6月末	2016年3月末	増減
(億円)			
資産	7,427	8,121	(694)
非流動資産	5,013	5,714	(701)
のれん・無形資産	1,543	1,764	(221)
有形固定資産	2,362	2,589	(227)
その他	1,108	1,361	(253)
流動資産	2,414	2,407	7
現金及び現金同等物	559	551	8
その他	1,855	1,856	(1)
負債	6,740	7,001	(261)
流動負債	2,849	2,859	(10)
金融負債	1,562	1,435	127
その他	1,287	1,424	(137)
非流動負債	3,891	4,142	(251)
金融負債	2,781	2,934	(153)
その他	1,110	1,208	(98)
資本	687	1,120	(433)
親会社の所有に帰属する持分	604	1,031	(427)
非支配持分	83	89	(6)
負債及び資本	7,427	8,121	(694)

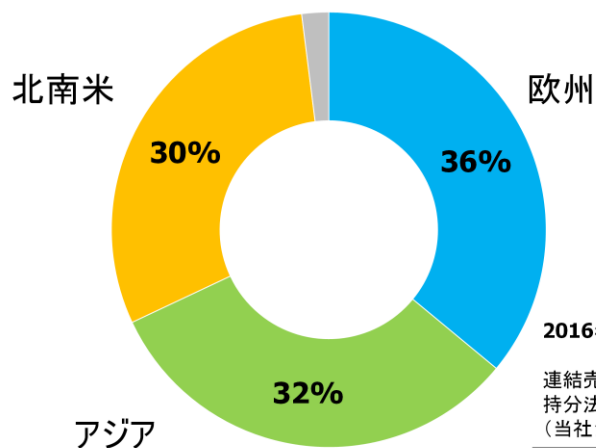
2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

26

為替レート

	<u>16年3月期</u> <u>4月-6月期</u>	<u>16年3月期</u>	<u>17年3月期</u> <u>4月-6月期</u>
期中平均為替レート:			
円/英ポンド	186	181	155
円/米ドル	122	120	108
円/ユーロ	134	132	122
期末為替レート:			
円/英ポンド	192	161	138
円/米ドル	122	113	103
円/ユーロ	136	127	114

(参考)2016年3月期 グループ売上高 地域別ビジネスウェイト



2016年3月期

連結売上高:	6,292億円
持分法適用会社売上高 (当社シェア分)	475億円
合計	6,767億円

当社グループは世界各地でビジネスを展開

2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

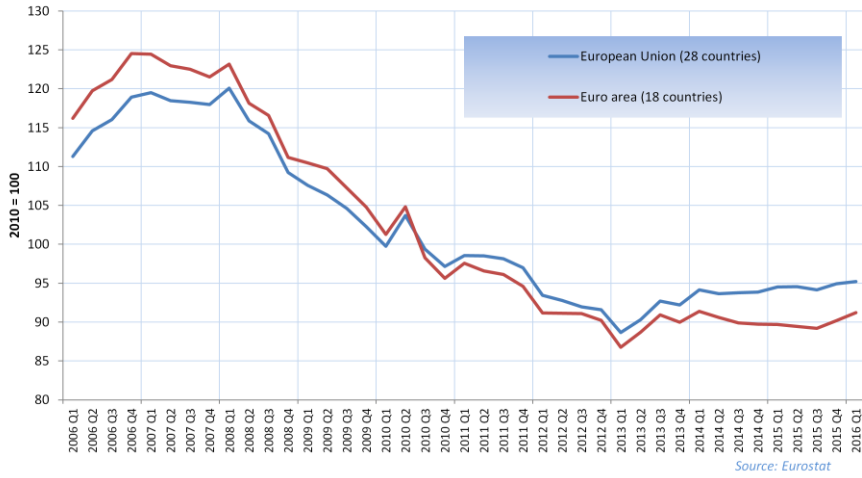
28

減価償却費・資本の支出・研究開発費



(億円)	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期 Q1
減価償却費	387	366	404	417	409	91
資本の支出	347	260	316	366	282	81
研究開発費	80	73	79	82	98	22

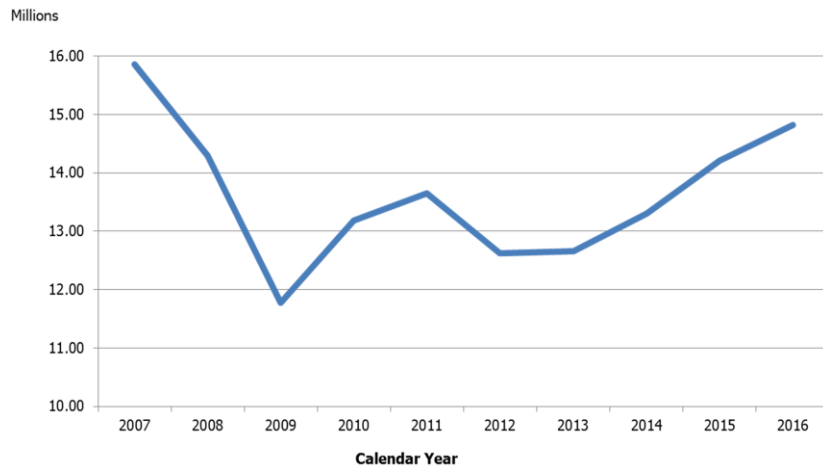
Production Statistic - Construction Sector Output



欧州西欧乗用車生産台数



Western Europe Light Vehicle Build



Source: : IHS Jul 2016, LMC Jun 2016

NSG Groupとは

- **世界最大級のガラスメーカー**
 - 建築用および自動車用ガラス事業をグローバル展開、高付加価値品拡大。
 - 高性能ガラス(タッチパネル基板、プリンター部品、グラスコード等)で世界をリード。
- **主要拠点 28カ国、製品販売 130カ国以上**
- **全世界で26基のフロートラインを運営**
- **全世界に 約27,000人の従業員 (2016年3月末)**

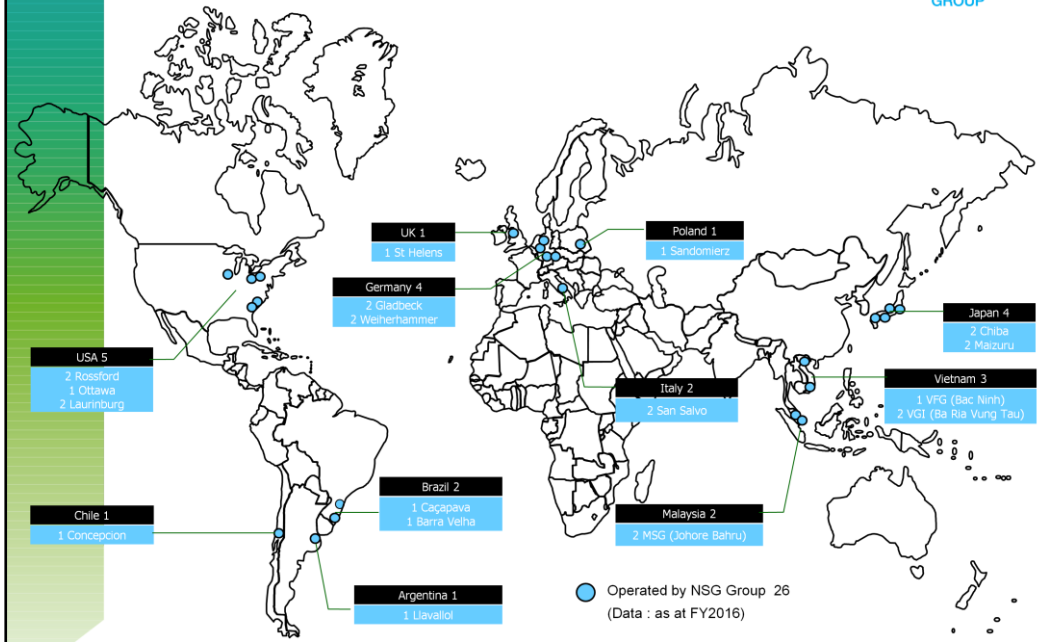
参考: 連結売上高 6,292億円 (2016年3月期)

沿革



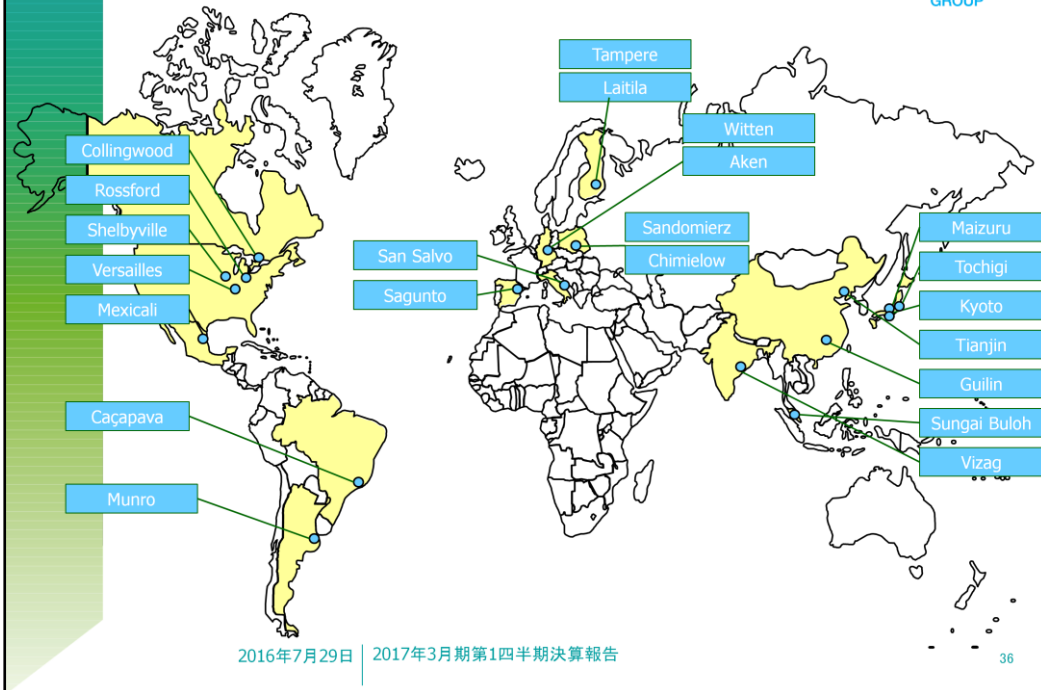
1918年11月	大正7年11月、コルバーン式製板法による板ガラスの製造を目的として、米国リビーオーエンスフォードガラス社から技術導入し、日米板硝子株式会社として設立され、大阪市に本店を置く。
1931年1月	日本板硝子株式会社と現社名に変更
1965年2月	舞鶴工場にフロート方式によるガラス製造設備新設
1968年11月	「セルフロック」の開発を对外発表（日本電気株式会社との共同開発）
1971年11月	マレーシアに、マレーシアンシートガラス社を設立
1995年3月	ベトナムフロートガラス社設立
1997年10月	真空ガラス「スペース®」の販売を開始
2001年10月	英国ピルキントン社、持分法適用会社となる
2004年7月	本店所在地を大阪から東京（東京都港区海岸）に移転
2006年6月	英国ピルキントン社、当社の完全子会社となる。NSG Groupとして事業展開へ。
2007年2月	東京本社及び本店所在地を現住所（東京都港区三田）に移転
2008年6月	委員会設置会社へ移行
2011年4月	連結会計に国際会計基準（IFRS）を適用

フロートガラス生産拠点



2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

自動車ガラス生産拠点



2016年7月29日 | 2017年3月期第1四半期決算報告

NSG

GROUP